

ポストコロナ社会における観測データ設計の集合知化

システム創成学専攻: 早矢仕晃章 助教, 上原直 (M2), 長谷大輔 (M1), 大澤幸生 教授

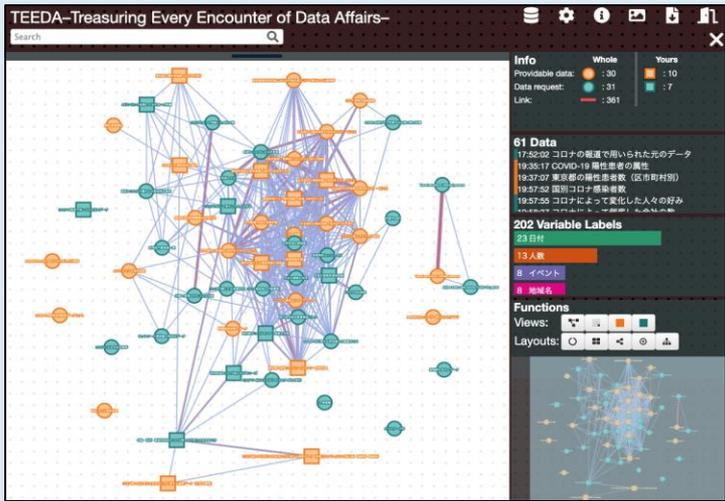


COVID-19現象の理解と対策のため、データ流通・共有の重要性が理解されることとなったが、未だデータ化されていない事象の観測とデータ化が課題に。

ポストコロナの未来社会研究スタートアップ制度の支援を頂き、コロナ禍をテーマのTEEDAワークショップから、「人とモノ、人と人の接触行動」データを設計。

TEEDA (Treasuring Every Encounter of Data Affairs)

データ邂逅支援マッチングツールを未観測事象のデータ化支援に応用。



- 人とモノ、人と人接触に有効な感染対策につながるデータは少なく、手洗いや手の殺菌の奨励等の対策に留まる。
- 接触行動の実態を確認・データ化し、対策の優先順位付けを行い、感染拡大期の有効な予防策の提案を実施する。



本プロジェクト及び内閣官房「AI等を活用したシミュレーション開発事業」にて感染拡大対策の提案のために当該データ取得し、人工合成データとの連携による社会シミュレーションへの応用を実施中。



1. 早矢仕晃章, 上原直, 長谷大輔, 大澤幸生, “コロナ禍における潜在ニーズの表出化とデータ利活用に関する一考察,” 第16回テキストアナリティクス・シンポジウム, 信学技報, Vol.120, No.166, NLC2020-6, pp.24-27, 2020.
2. Hayashi, T., Uehara, N., Hase, D., Ohsawa, Y., “Data Requests and Scenarios for Data Design of Unobserved Events in Corona-related Confusion Using TEEDA,” IEEE International Conference on Big Data, pp.4456-4461, 2020.
3. Hayashi, T., Ohsawa, Y.: Data Origination: Human-centered Approach for Design, Acquisition, and Utilization of Data, 12th International Conference on Soft Computing and Pattern Recognition, 2020.